

2017年度 褒賞申請書

事業名称	親が学べば子供も変わる ～サカイメソッドで親子チャレンジ～
カテゴリー	青少年育成部門

申請LOM	東海 地区 愛知ブロック 公益社団法人一宮青年会議所		
LOM 番号	008	LOMの人数	79 名
理事長名	服部 良太		
担当者名	西岡 信幸		
事務局住所	愛知県一宮市栄 4 丁目 6 番 8 号		
事務局TEL	0586-24-1120	事務局FAX	0586-24-1138

本事業の参加員数計画	会員数	84 名		
	関係者数	4 名		
	一般参加者数	100 名		
本事業の参加者	会員数	50 名	動員達成率	60%
	関係者数	3 名		
	一般参加者数	100 名	動員達成率	100%

事業背景
(200～400 文字程度)

私たちが生きる現代社会は効率とともに結果を求められる時代であり、成熟した現代社会は、急激に変化する先行き不透明な混沌とした時代となりました。私たち地域の大人は、未来の「今」を担う子供たちにこのような時代を生き抜くための「生きる力」を養わなければなりません。現代社会は子供に対して過保護になる傾向があります。“くつ！”と言えお母さんが靴を用意してくれる。困っている様子を見せればお父さんが答えを与えてくれる。よかれと思う親心が時として子供の考える力を奪うという皮肉な結果を生むこともあります。自分で考え、目的意識を持ち、自分のことは自分でやる。このような子供たちを育てることが必要です。そのために私たち地域の大人が子供たちに怒ったり、ただ単に手を差し伸べて答えを与えるのではなく、どうしたら悟らせるように導くことができるのかを学ぶ必要があります。

事業目的
(200～400 文字程度)

我々地域の大人(親)として子供たちの「生きる力」を共育することで未来の「今」を創ります。そのために子供たちの師表となるべく導く力を学び、子供たちは自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けることで「生きる力」を育みます。このように大人と子供が共に学びあうことで「生きる力」の共育を実現することを目的とします。

事業概要
(100～200 文字程度)

例会を三部制とします。
【第一部】
①一宮JCメンバー向けに【第三部】で一般来場者親子向けに行う内容を事前に学んでもらう。本日のプログラムの目的と効果を理解してもらい【第三部】で

	<p>は講師の方と一緒にあって一般来場者の方々に教えていただきます。</p> <p>【第二部 今日からやれる親学】</p> <p>②今日から始める「親学」プログラム 親子向けに PP 資料を交えた一宮 JC メンバーによる「親学」プレゼンテーション。日本青年会議所の「親道」プログラムを委員会メンバーで受講し、何度も協議と改良を重ねて一宮 JC としての「親学」として発表させていただきました。</p> <p>【第三部 サカイクメソッドにチャレンジ】</p> <p>③株式会社イースリー リアル事業部 スクールコーチ 高峯 弘樹氏に講師として親向けセミナーや親子体験を通して親に子供の接し方を説明していただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供との関わり方についての保護者セミナーを開催。 ・子供は別会場で一宮 JC メンバーとアイスブレイクを兼ねたサッカー体験。 <p>④親子サッカー体験 親は先程セミナーで学んだ内容を踏まえて子供への接し方・声掛けの仕方を実践してもらいます。事業前(普段)と事業後の子供の変化の差を確認する。その指導法を実践して子供の成長を実感することで親が学びを確認することができます。</p>
開催時期	2017年5月20日
開催場所	一宮市総合体育館
事業区分	新規
公益性の有無	公益事業
事業総予算	¥500,000-
協力団体	共催
	協賛 NPO 法人 スポーツフォーラム愛知
	後援 一宮市、一宮市教育委員会、株式会社アイ・シー・シー、中日新聞社、ハマダスポーツ企画
	その他
事業対象者	一宮市内の小学生(1年生～4年生)、参加者の保護者
行動 (200～400文字程度)	<p>2017年1月9日 第1回委員会</p> <p>2017年1月17日 第1回理事会 協議1回目</p> <p>2017年1月23日 第2回委員会</p> <p>2017年2月14日 第2回理事会 協議2回目</p> <p>2017年2月27日 第3回委員会</p> <p>2017年3月15日 第3回理事会 審議</p> <p>2017年4月11日 校長会にて事業 PR 市内全小学校チラシの配布・募集開始</p> <p>2017年4月30日 募集締め切り</p> <p>2017年5月20日 公開例会 実施</p>
結果 (200～400文字程度)	参加いただきました一般参加者親子 50 組の皆様、親には「親が学ぶことの重要性」を理解していただいた上で、子供が自分から動き出すに親としてどんな言葉をかければいいのか、どうすれば子供が自らの意思で動くようになる

	<p>か。子供自身が判断して決断できる人間になるために親がどのように関わっていくかを学んで理解していただきました。今回の体験の中で実践していただくことにより、普段と事業後の子供の変化、自分自身の変化を実感していただきました。</p>
<p>地域社会への影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>我々地域の大人(親)が学ぶことの重要性を理解して実践する事業ということもあり、子供に対してどのように接するのか、どのように声を掛けるのかを学んで実践していただきました。ただ怒ったり叱ったり答えを教えるのではなく、どうしたら悟らせるように導くことができるのかを学んでいただきました。事業後に「親子関係を見直すいいきっかけになった」、「一宮JCがこんな活動をしているなんて知らなかった、次回もまた参加したい」、「このようなイベントをどんどんやってほしい」、「次回は友達も連れてきたい」等の声をいただきました。いただいた声の中で一宮JCを知らずに参加いただいた親子様も多数いらっしゃいました。こうした事業を継続的に行うことで JC 活動を地域の皆様に認知して理解していただくことでさらなる活動(地域貢献)が可能になると思いました。各地域・家庭に今日の学びを持ち帰っていただき各自で実践していただくことでこの活動が地域に伝播するきっかけになると思います。</p>
<p>LOMへの影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>例年の青少年事業とは異なり、我々地域の大人(親)が学ぶこと重要性を理解して実践する事業ということもあり、従来のただ子供を引率するだけではなく子供に対してどのように接するのか、どのように声を掛けるのかを学んで実践していただきました。「見守る」=子供たちをただ見ている引率するのではなく、子供たちの輪の中に入って子供が自分で考えて行動して目的を達成するには、大人としてどう接して声を掛けてあげるべきか、ただ怒ったり叱ったり答えを教えるのではなく、どうしたら悟らせるように導くことができるのかを学んでいただきました。事業後に「自分の子供にも実践したい」と多くのメンバーから声をいただきました、各地域・家庭に今日の学びを持ち帰っていただくことでこの活動がLOMにはもちろん地域に伝播するきっかけになると思います。</p>
<p>事業の長期的な影響 (200～400 文字程度)</p>	<p>子供たちが目的意識を持って自分で行動するためには、我々地域の大人たちのサポートが必要です。ただ子供に怒ったり叱ったり、ただ単に手を差し伸べて答えを与えるのではなく、どうしたら悟らせるように導くことができるのかを学んでいただきましたことにより、今後、各地域に持ち帰っていただき本日の学びを実践していただくことで今回の事業の内容が地域に伝播していくと思われま。今回の事業で初めて一宮JCを知っていただいた一般参加者の方も沢山いらっしゃいましたので、JCの活動を知っていただくきっかけになったと思います。今後も継続的に活動を認知し理解していただくことで長期的ではありますが活動が地域へ伝播していくと思います。</p>
<p>考察や推奨</p>	<p>今回の事業で、参加していただいた親子には「子供に対する接し方を改める</p>

(200～400 文字程度)

良い機会になった」、「今日学んだことを早速実践したい」等の声を多数頂戴しました。今回で終わりではなく、今後も青少年の育成のためにもやはり「親が学ぶことの重要性」を地域に伝播する活動を継続的に行うことで子供たちの「生きる力」が育まれると思います。

その他

※参考資料

アンケート結果(一般参加大人 50 名)

【第二部】今日からやれる「親学」プログラムを受講されて「親学」について理解していただけましたか？

- | | |
|---------------|------|
| ① 理解できた | 44 名 |
| ② あまり理解できなかった | 6 名 |
| ③ 理解できなかった | 0 名 |

(意見)

- ・子育てを振り返るいい機会になりました、見守ってみたいと思います。
- ・あまり子供のやることにいちいち細かく口出しするべきではないと思った。
- ・サッカーだけでなく日常生活や学校教育においても子供の自主性の育み方が学ぶことができよい機会でした。
- ・なるべく親が指示することや言うことを聞かすのではなく、子供が考えて行動できるようなコミュニケーションをとろうと思う。
- ・「自分で決断させること」、「その子の 20 年・30 年後を見つめること」など、子供と触れ合うヒントがもられた。

【第三部】本日の体験を終えてみて、お子様またはご自身に何か変化を感じるところはありましたか？

- | | |
|-------------|------|
| ④ 大きな変化があった | 5 名 |
| ⑤ 変化があった | 31 名 |
| ⑥ 少しは変化があった | 11 名 |
| ⑦ 変わらなかった | 3 名 |

(意見)

- ・親の思いを押し付けるのではなく、子供の意見を尊重していけるように、私自身も変わろうと思う。
- ・子供と体を動かすことはとても楽しかったです、また同世代の他の親子さんと一緒に楽しかったです。
- ・子供のみんなに対する所を見て、積極的な子なんだと初めて知って子供を見直した。
- ・常に声を掛けるのではなく、子供の気持ちと接しながらポイントを絞って声を掛けたいと思いました。
- ・何でも頭ごなしに言うのではなく、子どもの判断を認められるようになりたいと思った。
- ・子供に対する過度な期待をせず、楽しんでいることを喜べるような見方に少し変わった(大人が)
- ・サッカーに全く興味がなく、運動もできない子(息子)だと思っていたけど楽しそうにやっていたので良かった。「足が速い」ということに気づいたのでたくさんほめてあ

げたいと思いました。

・日々、心がけている事と似ていることだったが、改めて全力で向き合いたいと思った。あいさつだけは・・・と叱ってしまう時があったが自分が見せていけばよいと思うことができた。

●本日の例会は子供には「自分で目的意識を持って行動できるようになる」というテーマで大人には「子供を導く力を学ぶ」というテーマで開催させていただきました。本日、一日体験していただいうえでどのように感じられましたか？今後親子が関わるなかに活かしていきたいと思える経験がありましたか？

(意見)

・4つの躰を忘れずに、今後子育てに向き合っていきたいです。思った以上に子供が親と一緒に運動することを楽しんでいたのでこれからも機会を作ろうと思います。

・日頃過保護にならぬよう、子供への接し方に気をつけてはおりましたが、具体的に教えていただき、また過保護な方の例をお聞きし、自身ももう一度改めて見直すきっかけとなりました。問題が人間を成長させる、ありがとうございます、この言葉はいつも胸に留めたいと思います。

・子供自身が考えて行動できていたことに感動しました。今後も教えを間違えないようにしたい。

・そうだなと思うことも普段時間が無い中だとどうしても忘れがちになる。その点で、原点に戻るきっかけになった。また、子供と試合をし、触れ合うことは何よりも信頼が築けると感じた。

・子供に考えさえる、任せるということの大切さが分かった。また、子供と触れ合うことができ、楽しそうな姿を見せられてよかった。

・母親目線で細かいことばかりを気にして怒ってばかりでうちの子供たちは萎縮していたのかもしれないと思った。父親目線で、もっと離れたところから見守って試みようかと思いました。

・導くということがどれだけできているのか自信はないのですが、再度いただいた資料を読み返して自分なりの親像を作っていきたいと思います。

・子供には今後生きていくうえで自主性を持って行ってほしいし、大人としては子供を導く「身守る」ということが理解できた。

・自分たちで「決める」ことを少しずつ取り入れていけたらよいと思いました。またサッカーもやりたいと言った時にはダメ出しではなく本人が考えられるよう声掛けするようにしたいです、いや、します！！

・子の失敗を親が責任を取る覚悟を持って見守っていきたいと思います。

※必須 添付資料(事業風景の新聞記事・写真など)





1次審査選定理由

- ・実は当たり前前の方が一番重要で、当たり前前の方が当たり前でないことを再認識できた
- ・単に子供をターゲットとするのではなく、青少年育成主体である親の意識変革が組み込まれている点を高く評価しました。
- ・サッカーと教育を組み合わせた点が斬新でした。
- ・子供たちは自らの意思で行動し目的を達成する力を身に付けることを伝えた魅力ある事業だと感じた。
- ・子ども達の視点のみならず、親にもスポットを当て、親子で共に考え、成長できる様うながしている点
- ・親子双方に目的があり、例会の目的が市民に伝わり、人の意識を変えたいきっかけとなる例会だと思った。これからは自分の考えを持ち、行動できることが求められるので、青少年育成事業として、とても意味のあるものだと感じた。
- ・自らが考え行動することをサッカーという教材を使いながら、大人が学び、子供が感じれる例会内容であると考えます
- ・親の意識変革からの青少年育成を徹底した内容でありその場の楽しさだけでなく長い目で青少年育成につながる事業であると思う為
- ・子供は親を見て育つ。今の時代に合ったとても良い例会。

2次審査選定理由

- ・目的が青少年の健全な育成に繋がるため
- ・一般参加者の動員率、費用対効果が1番良いと感じた
- ・親御様の目線に立った、違うアプローチでの青少年育成
- ・まずはJCメンバーが確りと学び、さらに地域の親子に向けて伝播していくという一連の流れ。
- ・青少年育成に関して親と子それぞれに対しての目的が有り、大人と子供が共に学ぶ事で事業目的を達成できているから。
- ・未来を担う子どもたちの生きる力を育む事業であることから。
- ・背景事業目的に適した事業であり親子で子育てを学ぶいい事業を市民の方に提供できていると思いました。
- ・三部制のプログラム内容が親と子の共育にマッチしていた点
- ・目指すべき青少年育成の方向性が明確であり、日本JC「親学」プログラムを一宮JCスタイルに改良されたプロセスが素晴らしい。
- ・親子で参加できる学びのある事業だと感じたから。
- ・評価実績もしっかり掲載されており、子ども達とのかかわりも伝わる。社会的価値のある事業を行ったと感じる
- ・親の背中から子供達を導くと言った視点と事業内容
- ・事業後に子供と親の両方に変化がみられるため

最終審査選定理由

- ・コンセプトが良く、いい事業だと思います。
- ・親が学ぶことの大切さは、一昔前よりも随分高まっていますので、この事業のようなアプローチは是非続けていただきたいです。
- ・子どもの「生きる力」を育むために、子どもに対してではなく、「親の子どもの接し方」に課題を持ち、そこにアプローチすることは大変重要なこと。